サンハヤト
EL84シングルステレオパワーアンプキット
FA-50の製作

半澤公一 HANZAWA Kouichi

「真空管アンプを作ってみませんか」．昨年12月，所用で編集部を訪れたところ，声がかかった．聞けばキット製品とのこと．キットといえば，以前ラックスのアンプを製作したのが最後、ずいぶんと時間を経ていることを思い出し，近年の動向も知りたくてトライしてみることにした．

モデルはサンハヤトのFA-50．自作派にとってはプリント基板などで馴染みあるメーカーだが，同社の創立50周年を記念した製品だ．ECC83S（12AX7）—EL84（6BQ5）の2段シングルアンプ構成で，初段をSRPPとし，出力段は5極管接続の構成にすることで，カタログデータでは定格で3.5W＋3.5Wの出力を得ている．入力端子は2系統．背面にあるRCAタイプのほか，前面にφ3.5mmステレオミニジャックが設けられ，シリコンプレーヤーやスマートフォンといった小型のデジタル機器も手軽に使える仕様となっている．

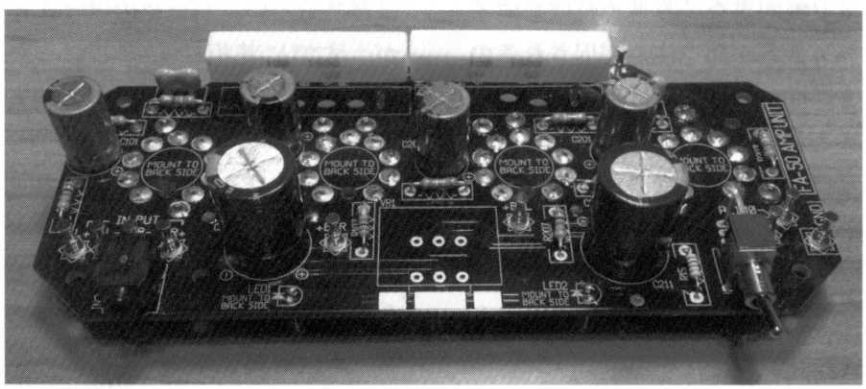
コンパクトなサイズながら，搭載するプリント基板の作りの確かさ，また各部の搭載パーツにはオーディオグレード品を採用するなど，さらに音質を左右するハンダはあえて同梱されず，作り手が自ら選ぶといったこだわりを見せる製品構成から，長きにわたり愛用できるモデルといえるだろう．

プリント基板の採用

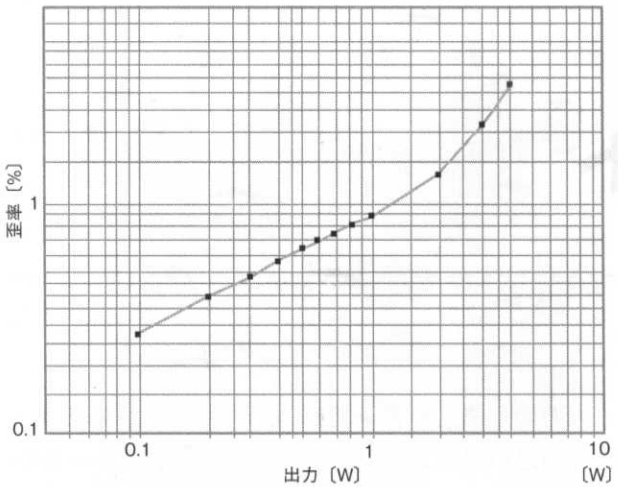
編集部から届いた荷物はシャシー部分と小分けされた各種パーツやプリント基板，マニュアル類が梱包されていた．部品点数は20個ほど．CRや外装パーツはそれぞれがカテゴリー別に分類されている．

早速組立説明書に目を通し，回路図を含めてこれから製作するアンプのアウトラインを頭に入れておく．そして，次にパーツ類の検品．数量や型番をマニュアルと照らし合わせ．不足や品番違いがないかをじっくり確認してから製作にとりかかった．ちなみにハンダは使い慣れた千住金属の青，φ1.2を用意した．

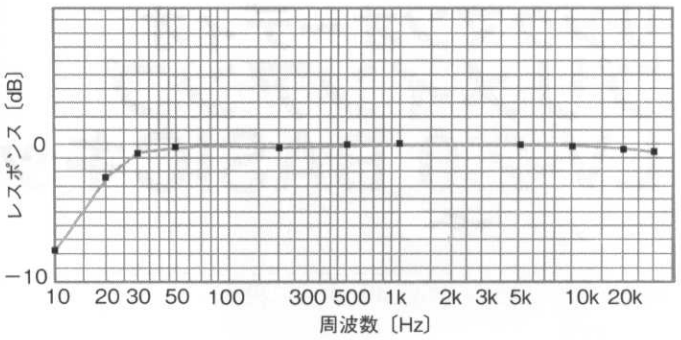
まず1枚仕様になっているプリント基板からプラモデルの部品を取り外すように4枚の基板を切り出すが，素材が厚めのガラスエポキシなのでプライヤーを使い，各所均等に少しずつ力を加えながら進める．このとき，切り離された



[写真1]増腹部のパーツはすべて基板上にハンダ付けしていく

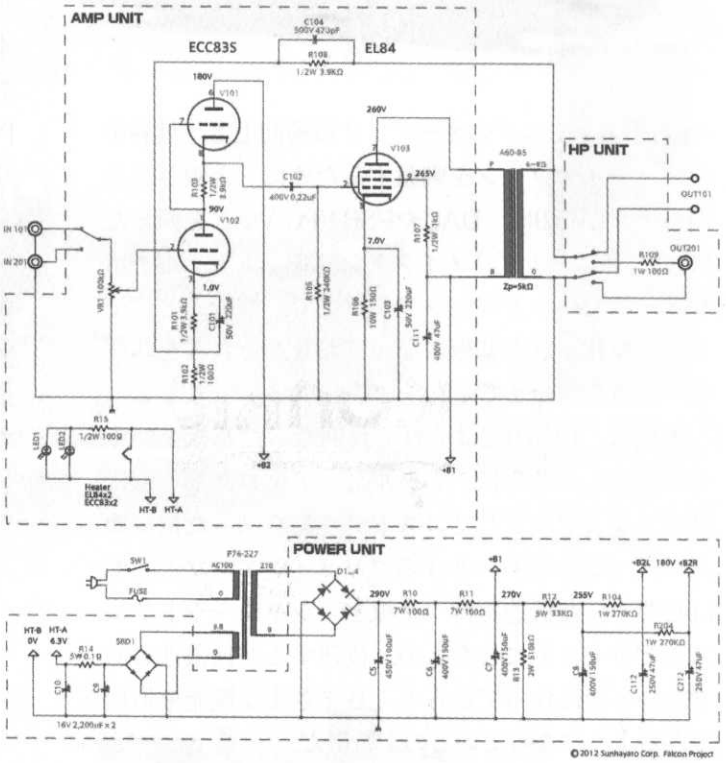


[図1]出力電力対全高調波歪率特性(1kHz，8Ω負荷)



[図2]周波数特性(8Ω負荷，出力1W)

[写真5]入力2系統とヘッドフォン出力もあり，PCオーディオ用としても便利



[図3]マニュアル付属の回路図

いない.

一聴して感じたのは低域の豊かさと暖色系のヴォーカルの質感. 低域についてはダンピングファクターの低い数値が良い方向に作用したかと予測するが，太くてゆったりとした唄は何とも心地よい. このあたりは要所に配された高品位のパーツのおかげだろう. 出力はおそらく電圧配分から3.5Wに満たないと予想されるが，能率89dBのLE8Tでも普段使いでは充分すぎる音量だ. 欲をいえば，中高域に感じる若干の硬質さが気がかりなところだが，何せ電源を入れたばかり. このあたりは差し引いておくべきだろう. 期待を大きく上回るサウンドに驚いたのが正直なところだ.

今回のアンプ作りで印象に残ったのは，とにかく製作が容易なこと. その要因はプリント基板を用いた仕様に加え，ハンダ付けに手間取らないポストピンの採用である. 作業性のスムースさは作る楽しみを加速させてくれることをあらためて感じた. 加えて組み立てマニュアルが良くできていた. 懇切ていねいで，ポイントを押さえたイラストとコメント，大型写真の掲載が何より迷ったときの支えになる.

シルバーのシャシーにアクリル板をあしらって，上品かつコンパクトなデザインはどこに置いてもマッチする. キット製品とはいえ自らの手で仕上げたとなれば愛着もひとしおだ. 手頃な価格ながら，もの作りと良質なサウンドを両方一度に楽しめる佳品といえよう.